

日本の大学数は 781 大学 私立大学が約 8 割！ 「2020 年度 日本の大学データ」より

旺文社 教育情報センター 2020 年 4 月 1 日

いくつかの大学が日本には存在するのか。学部・学科の数は？いちばん多く学べる学問分野は、いったい何なのか。本記事では、日本の大学の基本データとも言えるそれらをまとめた。

※本記事にて集計している大学・学部・学科に関しては、『螢雪時代 8 月臨時増刊（2019 年 7 月刊行）』編集にあたり実施した、各大学へのアンケートをもとにしている。新增設や廃止のほか、編集上の若干変動も含まれる。

●日本には 781 大学あり、そのうち約 8 割が私立大学

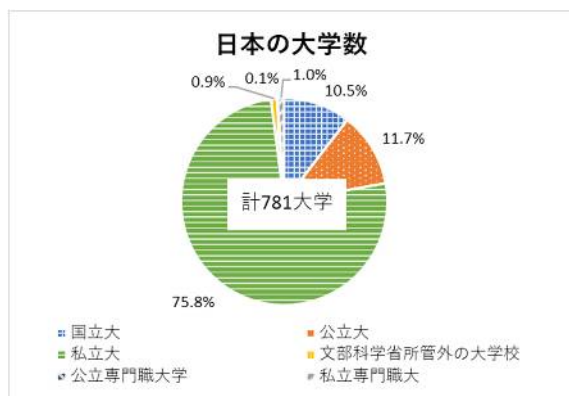
2020 年度（4 月時点。以下、同）の日本の大学数は 781 大学。これはこの年（2020 年）の 4 月入学者の学生募集を行なった大学だ。

日本の大学数という極めて基本的な数値は、実はあまり知られていない。文部科学省の「学校基本調査」でも毎年見ることができるが、これは日本に「存在する大学数」。つまり、募集停止をした大学や統合した大学でも、2~4 年生が在籍しているなど、大学として残っているうちはカウントされる。大学院しか持たない大学院大学も含まれる。

たとえば前年度で見ると（本年度はまだ「学校基本調査」が発表されていないため）、「学校基本調査=786 大学」に対し、「学生募集を行なった大学=774 大学」となる。しばしば日本の高等教育の規模について議論がなされるが、その場合、この「学生募集を行なっている大学」を日本の大学数と見るべきだろう。

一方で、防衛医科大学校や国立看護大学校など、文部科学省所管外（以下、所管外）の大学校のうち、学士の学位がとれるところについては、大学同様と判断し、数に含めた。2019 年度創設の「専門職大学」についても、同様の扱いとした。

下の円グラフは、その内訳を表したものだ。私立大が全体の約 8 割を占めていることがわかる。国立大と公立大はほぼ同じ割合で、それぞれ約 1 割に過ぎない。圧倒的に私立大の数が多ことがわかる。

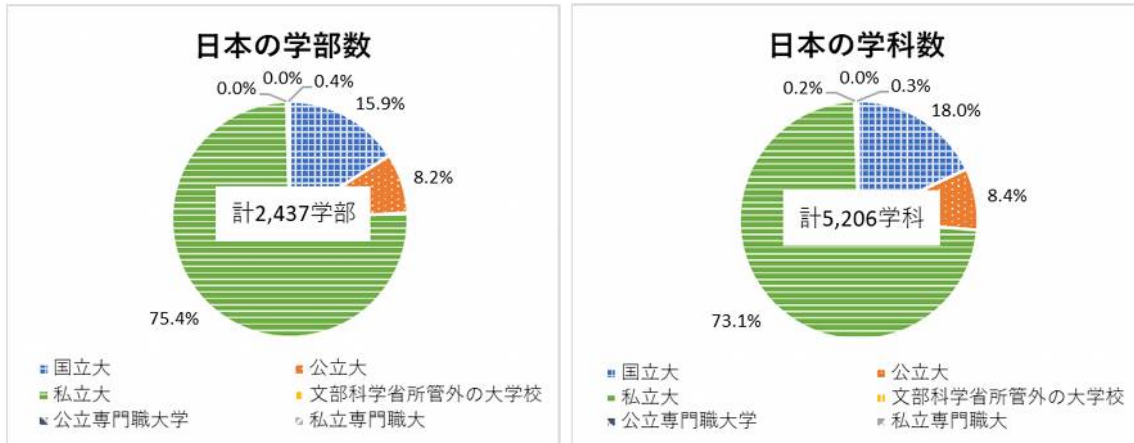


◆本記事では以下のものを日本の大学数としてカウント。

- ・国立大・・・82 大学
- ・公立大・・・91 大学
- ・私立大・・・592 大学
 - └うち通信制のみ・・・6 大学
 - └うち株式会社立・・・3 大学
- ・文部科学省所管外の大学校で学士の学位がとれるもの・・・7 大学校
- ・専門職大学・・・公立 1 大学、私立 8 大学

※以下のものは含まない。
新設認可申請中の大学、募集停止をした大学、大学院大学

● 学部の約 8 割、学科の約 7 割が私立大学



上の円グラフは、全国にある学部・学科（学域・学類など、学部・学科に類するものを含む）の数と、その学校種別の割合を表している。

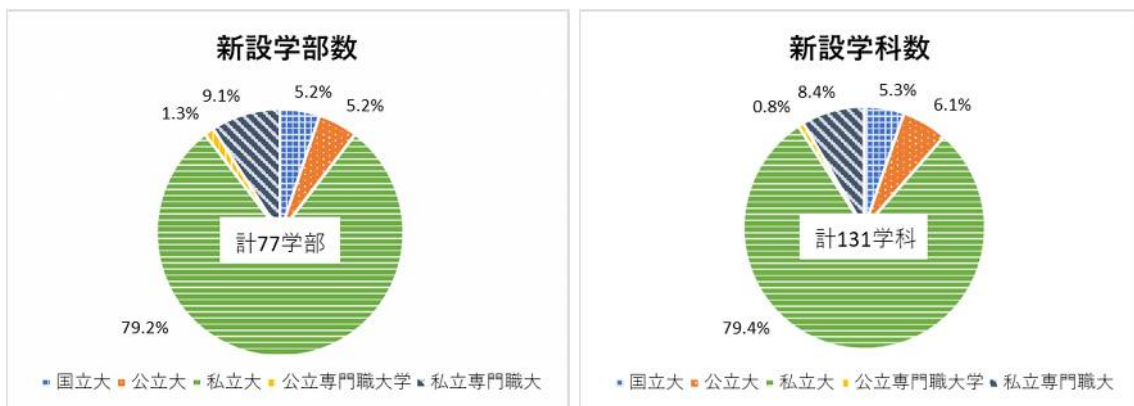
学部数は、国立大 388 学部、公立大 200 学部、私立大 1,838 学部、所管外 1 学部、公立専門職大学 1 学部、私立専門職大学 9 学部で、学科数は、国立大 935 学科、公立大 436 学科、私立大 3,807 学科、所管外 11 学科、公立専門職大学 1 学科、私立専門職大学 16 学科。計 2,437 学部、5,206 学科が存在しているが、学部ではその約 8 割、学科では約 7 割が私立大であることが見てとれる。

なお、大学数における割合と比較すると、学部・学科数では、国立大は割合が高く、一方、公立大は割合が低い。これは、国立大には総合大学が多く、一大学の学部・学科数が多いが、看護大学を中心として単科大学が多い公立大では、一大学あたりの学部・学科数が少ないためだ。

● 2 年目の「専門職大学」、7 校が新設

ここまでは、全国のすべての大学・学部・学科について述べてきた。このうち今年度の新設（2020 年 4 月開設）の大学・学部・学科について見てみよう。

※ここでの新設とは、認可申請・設置届出・名称変更を指す。名称が変わっていれば新設としてカウント、変わっていなければ、認可申請・設置届出をしていてもカウントしていない。



新設大学は 12 大学で、公立大 1 校、私立大 4 校、公立専門職大学 1 校、私立専門職大学 6 校。ちなみに、公立大の 1 校は校名変更をした東京都立大だ。なお、私立大 3 校が募集停止をした（関西国際大に統合された神戸山手大を含む）。

新設学部は、国立大 4 学部、公立大 4 学部、私立大 61 学部、公立専門職大学 1 学部、私立専門職大学 7 学部の計 77 学部、新設学科は、国立大 7 学科、公立大 8 学科、私立大 104 学科、公立専門職大学 1 学科、私立専門職大学 11 学科の計 131 学科（所管外は新設なし）。すでにいま日本にある学部・学科の大多数を占めている私立大だが、2020 年度の新設においても約 8 割が私立大となっている。

2019 年度にわずか 2 校ではじまった「専門職大学」。2 年目となる 2020 年度には初の公立専門職大学も誕生し、私立についても新たに 6 校が加わった。制度としてはようやくスタート地点に立ったと言えよう。2021 年度新設に向けて昨年 10 月末に認可申請のあった専門職大学は 7 校（公立 1 校、私立 6 校）だ。今後も目が離せない。

●もっとも多いのは「経営学・経営情報学・商学・会計学」分野

次に、日本の大学で学べる学問分野について見ていこう。2020 年 4 月時点で全国にあるすべての学科を旺文社分類の 71 の学問分野に分類し、多いほうから並べたのが下の表だ。

	学問分野	学科数	学問分野	学科数	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	484	25 栄養学	135	49 美術	53
2	社会学・観光学・メディア学	343	26 応用化学	134	50 家政・生活科学	52
3	医療・保健学	336	27 生物学・生命科学	130	50 住居学	52
4	語学	329	28 政治学・政策学	128	52 航空・宇宙工学	45
5	国際関係学・国際文化学	323	29 特別支援教育課程	121	53 地学	43
6	情報工学	295	30 環境科学分野／その他	114	53 応用物理学	43
7	看護学	290	31 食物学	112	55 農業経済学	41
8	小学校・幼稚園課程	269	32 薬学	110	55 被服学	41
9	経済学	266	33 土木工学	104	57 畜産学・動物学	40
10	心理学	252	34 人間科学分野／人文系その他	99	58 水産学	37
11	文学	246	35 哲学	97	59 農業工学	35
12	文化学	233	36 生物工学	90	60 養護教諭課程	34
13	機械工学	215	37 農学	85	61 教養学	33
14	電気・電子工学	205	38 物理学	84	61 経営工学・管理工学	33
15	福祉学	190	39 農芸化学	82	63 工芸	32
16	児童学・子ども学	181	39 医学	82	64 森林科学	30
17	体育・健康科学	177	41 化学	79	65 歯学	29
18	数学・情報科学	167	42 教育学	72	66 獣医学	19
19	芸術系その他（CG等含む）	166	42 医用・生体工学	72	67 船舶・海洋工学・商船学	16
20	法学	164	44 材料工学	69	68 資源工学	15
21	建築学	159	45 生物生産・生物資源学	64	69 原子力工学	11
22	デザイン	142	46 総合科学	60	70 教育支援等その他	7
23	史学・地理学	138	46 光工学分野／その他	60	71 高等学校教員養成課程	1
23	中学校課程	138	48 音楽	58		

※学科が複数の分野に分類できる場合は、それぞれの分野でカウント（重複してカウント）した（記事中の他の表も同様）。

もっとも多いのは「経営学・経営情報学・商学・会計学」分野だ。「経済学」分野も上位 10 分野に入っている。都市部や地方を問わず、全国各地で企業経営を支える実学という理由はもちろんのこと、学科の設置にあたって理系学科のように設備投資がかからないこと、国際経営学科や経営情報学科など、時代に応じて細分化していったこと、かつての経営系の女子短大が共学 4 年制化したことなども挙げられよう。2020 年度の新設学科にもこれらの分野に該当する学科は多く、改めて注目の集まる分野となっている。

次いで学べる学科数が多いのは「社会学・観光学・メディア学」分野。近年の外国人観光客の増加に加え、東京オリンピック・パラリンピックを控え、ますます関心が高まっている観光学分野や、国の地方創生・地域活性化の流れを受けた地域発展系の学科、また、複雑化する現代社会における諸問題解決のスキルを身につける現代社会学科といった学科が、近年、多く見られるようになった。上位10分野中、3分野を除くすべてが文系の学問分野となっている。

理系では、いまや生活に欠かせないコンピュータ、ネットワークに関連するさまざまな技術を学ぶ「情報工学」分野、そして、資格取得率が高く、将来に直結する医療系のなかから、「医療・保健学」分野と「看護学」分野が上位に入った。なかでも「情報工学」分野と「医療・保健学」分野に関しては2020年新設の学科も多く、変わらぬ人気を誇っている。

● 国立大は理系、公立・私立大は文系の学部が上位

国立大学		
	学問分野	学科数
1	情報工学	77
2	機械工学	73
3	電気・電子工学	72
4	数学・情報科学	66
5	応用化学	62
6	小学校・幼稚園課程	53
7	土木工学	52
8	中学校課程	51
9	経済学	47
10	生物学・生命科学	46
10	特別支援教育課程	46

公立大学		
	学問系統	学科数
1	看護学	50
2	経営学・経営情報学・商学・会計学	44
3	情報工学	38
4	国際関係学・国際文化学	30
5	医療・保健学	26
6	経済学	25
7	社会学・観光学・メディア学	24
8	語学	23
8	デザイン	23
10	文化学	22

私立大学		
	学問系統	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	395
2	語学	281
3	社会学・観光学・メディア学	279
4	医療・保健学	272
5	国際関係学・国際文化学	261
6	小学校・幼稚園課程	212
7	心理学	206
8	文学	201
9	看護学	196
10	経済学	193

上の表では、全国の学科を分類した上でさらに国公立大別にし、それぞれの上位10分野を掲載した。

国立大に関しては、工学系の学問分野が上位を占め、理系が多数ランクインしている。また、文系では、教育・教員養成系の学問分野が多いことがわかる。全体でもっとも多い「経営学・経営情報学・商学・会計学」分野は、国立大のみ上位10分野に入っていない。

公立大には「看護学」分野がもっとも多く、「医療・保健学」分野も上位に入ってきている。地域貢献は国公私を問わず、すべての大学に課せられたテーマではあるが、特に公立大にとっては直接的な課題だ。そのなかでも医療を担う人材の育成は、地域からのニーズが高く、大学側にとっても、貢献度合いが目に見えやすい。公立 91 大学中、「看護学」単科の大学は 10 大学、「医療・保健学」とあわせて、いずれか、または両方が学べる大学は 50 大学にもものぼる。

私立大は「経営学・経営情報学・商学・会計学」「文学」「経済学」といった伝統的に多い分野のほか、現在の、あるいはかつての「学科新設ブーム」を色濃く反映している。現在のトレンドは「語学」「国際関係学・国際文化学」の国際系だ。

●地区によっては学べない学問もある

北海道・東北		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	42
2	看護学	33
3	情報工学	31
4	医療・保健学	26
5	福祉学	25
6	小学校・幼稚園課程	24
7	経済学	23
8	心理学	22
8	文化学	22
10	社会学・観光学・メディア学	21

関東・甲信越		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	220
2	社会学・観光学・メディア学	168
3	国際関係学・国際文化学	160
4	医療・保健学	140
5	語学	135
6	文学	127
7	経済学	117
8	情報工学	116
9	文化学	106
10	看護学	104

北陸・東海		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	62
2	語学	53
3	看護学	44
4	国際関係学・国際文化学	43
5	小学校・幼稚園課程	41
6	社会学・観光学・メディア学	39
6	情報工学	39
6	医療・保健学	39
9	文化学	35
10	心理学	34

関西		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	76
1	社会学・観光学・メディア学	76
3	語学	74
4	医療・保健学	67
5	国際関係学・国際文化学	62
6	小学校・幼稚園課程	58
7	心理学	54
8	看護学	51
9	文学	50
10	経済学	49

中国・四国		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	49
2	医療・保健学	39
3	小学校・幼稚園課程	34
4	情報工学	33
5	看護学	32
6	社会学・観光学・メディア学	25
7	心理学	24
7	経済学	24
7	児童学・子ども学	24
10	語学	22
10	機械工学	22

九州		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	48
2	語学	39
3	情報工学	35
4	看護学	31
4	医療・保健学	31
6	経済学	30
7	国際関係学・国際文化学	29
8	小学校・幼稚園課程	25
8	電気・電子工学	25
10	社会学・観光学・メディア学	23
10	福祉学	23
10	機械工学	23

※学科の履修地が複数（選択制、コースによって異なる、学年で変わる場合など）ある場合は、それぞれにカウント（重複してカウント）。本部のみ判明のものは、本部地をカウントした。

次に、地区別に見てみよう。前ページに、国公立大別と同様に学科を分類して履修地別にし、それを地区ごとに集計した上で、それぞれの上位 10 分野を掲載した。

「経営学・経営情報学・商学・会計学」分野はすべての地区でもっとも多い。さらに、全国的に見たときに多い「社会学・観光学・メディア学」「医療・保健学」分野などが並んでおり、学べる学科数の多い分野のラインナップは、地区別に見ても大きくは変わらない。しかし、注意深く見ていくと、わかることもある。

たとえば、関東・甲信越を除いたすべての地区の上位 10 分野に「小学校・幼稚園課程」分野が入っている。「看護学」分野についても、関東・甲信越地区に比べると、その他の地区では上位に入ってきているのが見てとれる。将来的に、その地域で暮らしていく上で生きる資格を取得できる学科が多く存在しているということだ。

また、学べる学科が大都市のある地区に集中している学問もある。たとえば、関東・甲信越、関西地区の上位 10 分野に入っている「文学」分野は、その 2 地区で、学べる学科数全体の約 7 割を占める。さらに、どの地区でもだいたい、すべての学問分野を学べるが、「原子力工学」「経営工学・管理工学」「船舶・海洋工学・商船学」分野など、地区によっては学べないものも存在する。

(2020.4 阿部)